

学校と地域の協働・連携 振り返り

経過・内容

平成31年度入学式

4月4日、西内小学校入学式が実施され、2名の新入生を迎えました。

入学式の前に一学期始業式が実施されました。始業式では校長より全校児童、職員に向けて講話があり、今年度の学校体制、学校目標と重点目標、特色ある教育活動についての話がありました。今年度は1・2年生、3・4年生が複式学級となり、5、6年生も合同授業を増やしていきます。なかよし班活動（全学年の縦割り班活動）を含め、異学年交流を深めていってほしいとの願いが語られました。

また、今年度は「地域に出る活動」にも力を入れていくことを確認しました。地域のひと・もの・ことに触れ、かかわりながら児童には地域に愛着、誇りをもってくれることを願います。地域に出て学習を進めていき、地域住民の皆さんにも気軽に学校に足を運んでもらえるようにしていきたいです。機動力を発揮して、地域とのかかわりを生みやすいという小規模校のよさを活かすことを念頭に新年度がスタートしました。

なかよし遠足

5月8日に内村ダム下公園を目的地に、なかよし遠足が実施されました。

西内小学校は5月7日～10日がなかよし週間です。なかよし遠足も週間の活動の一環として、全校児童、地域住民の皆さんとのかかわりを深める目的をもって実施しました。

児童は全学年が混じった縦割りのなかよし班ごとに歩きました。地域のボランティアさんにも参加してもらい、児童を励まし歩いてもらった。全校児童のかかわり、地域住民の皆さんとのかかわりが生まれる遠足となりました。



赤松植林体験

5月9日に赤松植林体験学習を実施しました。全校児童で地区の共有林へ出かけ、50本の赤松の苗を植えた。体験を通して身近な森林に親しみをもつことができました。



赤松を植えた場所だが、急な斜面で滑り落ちないように気を付けて、友達と助け合ったり、学校支援ボランティアさんや地域住民の皆さんに手伝ってもらったりしながら植えました。

学校支援ボランティアさん、地域住民の皆さんの支援により貴重な体験学習を実施することができました。地域に思い入れをもてる場所ができました。

学校支援ボランティア発足会

5月21日に学校支援ボランティア発足会を実施しました。発足会では学校運営、ボランティアさん組織等の説明に続いて、どんな活動ができそうか、どんな活動をしていきたいか話し合いがもたれました。学校からこんなことをお願いしたい、こんなことで児童と触れ合ってもらいたいとの話の後、ボランティアさんからもこんな活動ができるのではないかとといったアイデアを提案してもらいました。

学校では運営方針の中核として、「地域に出る活動、地域に学ぶ活動」を掲げています。地域学習のよさは、児童にとって足を運んで、手にとって、人と話して体験的な学びができることです。また、身近な地域から調べたいことや考えたいことを見つけたり、地域に働きかけたりすることで、課題発見や解決の力が養われます。さらに、地域に学ぶことを通して、地域への愛着や誇りも培われていくことが期待できます。充実させていきたい学習です。

発足会時点で43名の学校支援ボランティアさんの登録がありました。児童には、保護者、地域住民の皆さんとともに活動することを楽しみにしている様子があります。保護者、地域住民の皆さんにも児童とかわって活動することを楽しんでもらえることを願いました。

校庭運動会

第124回校庭運動会が6月1日に行われました。西内小らしさが随所に見られた運動会となりました。

来賓、保護者、地域住民の皆さんとのかかわりが多くありました。大玉送り、来賓種目では、地域住民の皆さんにも競技の中に入って運動会を盛り上げてもらいました。PTA綱引きでは、縄のきしむ音に児童は驚きの声をあげていました。運動会の最後は地域住民の皆さん、児童、教職員が輪をつくり、6年生の太鼓のリズムに合わせて鹿教湯八景を踊りました。児童を中心にして、地域が一体となった瞬間でありました。学校と地域の強いつながりが垣間見える運動会となりました。



合同作業、プール清掃、土づくり

5月25日のPTA・学校支援ボランティア合同作業では、大勢の保護者、学校支援ボランティアさんに協力してもらいました。運動会に向けた準備作



業、薪運搬が主な作業内容でしたが、運動会の準備を整え、多くの薪を運び込むことができました。6月5日のプール清掃にも15名の保護者、学校支援ボランティアさんの参加がありました。水泳学習に向けた大プール、小プールの清掃作業を、児童とともにしてもらいました。6月21日には学校支援ボランティアさん5名に、プランターの土づくりをしてもらいました。コーディネーターさんを通じて参加を呼びかけてもらいましたが、手際よく作業をしてもらい、中庭の草取りまでしてもらいました。

これらの作業を通し、西内小が保護者、地域住民の皆さんに支えられているとの感を強くしました。

金管バンド 鹿教湯病院祭での演奏

6月8日は西内小金管バンドが鹿教湯病院祭に招かれ、演奏を披露しました。鹿教湯病院の会場は満員で、西内小金管バンドの演奏を楽しみにしている方が大勢いるのがわかりました。



たくさんの病院職員、患者さん、地域住民の皆さんに聴いてもらいましたが、車椅子の高齢患者さんが、演奏に合わせて手をたたいたり、首でリズムをとったり、音楽を楽しんでいる姿が印象的でした。

予定の演奏内容を終了してもアンコールの手拍子が続き、数曲を披露しました。聴いてくださる方々といっしょに音楽を楽しむ、そんな経験となった鹿教湯病院祭のステージとなりました。金管バンドの音楽を通して、地域と学校がつながる機会となりました。

地域の方とともに活動する外国語活動

新学習指導要領を先行実施して、西内小学校では3・4年生が週1時間の外国語活動、5、6年生が週2時間の外国語の授業を実施しています。

5月の学校支援ボランティア発足会で、「外国語を児童とともに学ぶという活動もできるのではないか」とのアイデアが出されました。生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習する生涯学習社会の推進がめざされています。大人も学び続けている、そんな姿を児童が目にすることができれば、生涯学習社会の取り組みを体感することになります。児童の学ぶことへの見方・考え方の深まりが期待できます。また、来年度より本格実施の新学習指導要領では、異年齢の集団の中で、本物のコミュニケーション能力を養うことが謳われています。社会に出れば、児童は異年齢集団の中で生きていくことになります。社会と学校をつなぎ、学校教育の中に異年齢者を含む様々な人とかわる場面をつくっていくことは価値のあることでしょう。児童が授業の中で異年齢の方々とともに活動することで、コミュニケーションの力の育成が期待でき、学校支援ボランティアさんの皆さんにも外国語を学ぶこと、児童とかわることを楽しんでもらえればよい活動になると思いました。

そんな期待を込めて、コーディネーターさんに声をかけてもらい、地域住民の皆さん3名が3・4年外国語活動の授業に参加しました。6月14日のALT来校時の授業です。授業は英語のあいさつ、ゲーム等の内容だったが、担任、ALT、3・4年生児童、学校支援ボランティアさん、皆の笑顔があふれる楽しい雰囲気の授業となりました。

授業の後感想を聞いてみました。学校支援ボランティアさんからは、「楽しかった、また参加したい。」「学生の頃は英語が選択制であまりできなかったから、今日は英語ができて嬉しかった。」「いつか温泉に来た外国人の旅行者と話してみたい。」といった声が聞かれました。児童にも聞いてみたが、「大人がぼくたちといっしょに勉強しているなんて面白い、楽しかった。」「大人は大人、児童は児童で話していたから、今度は大人と子どもがもつといっしょにやったらいい。」といった声がありました。

現在活動は継続され、生涯学習への取り組み、コミュニケーションの力の育成を念頭に活動が深まり、学校の中に児童と大人が共に学ぶ空間ができています。



リンドウ栽培

リンドウは西内小の校章にもあしらわれ、地区を象徴する花です。1・2年生活科、4年理科では地域の花、リンドウを育ててみよう、観察してみようと活動に取り組みました。



6月20日に小宮山正治さんのリンドウ畑を訪れました。1, 2, 4年生児童9名と引率職員で出かけました。小宮山さんにリンドウについて話をしてもらい、リンドウが地区の気候風土に合う花であること、地区のリンドウ栽培には歴史があること等、西内とリンドウの由縁について説明してもらいました。また、長年リンドウ栽培に携わってきたこと、10年かけて研究

し、ピンク色のリンドウの花を開発したこと、今もリンドウ栽培に励んでいること等自身の取り組みについても話してもらいました。児童は小宮山さんを見ながら、また目の前のリンドウを見ながら話を聞いていました。学校に戻って、小宮山さんに指導してもらいながら、それぞれの児童が小宮山さんからもらった苗3本の植え付けをしました。地域のひと・もの・ことに触れる活動となりました。

学校へ行こう週間

西内小学校のことをもっと知ってもらうこと、地域の交流を深めることを目的として、9月9日～13日に学校開放の週間「学校へ行こう週間」を開催しました。期間中たくさんの保護者、地域住民の皆さんに足を運んでもらい、充実した週間となりました。また、学校、PTA、学校運営協議会共催の週間として、多くの方にご協力・ご支援をいただきました。

テーマは「自然 文化 教育でつなぐ、つながる」と設定しました。

9月9日 1日目 「西内の自然と文化」

地域住民の皆さんに地区で採れた野菜や花、お菓子の販売をしてもらいました。西内の自然や文化の恵みを楽しみ、味わう機会となりました。



「鹿教湯まんじゅう三味食べくらべセット」「西内野菜100円市」「西内名産トルコキキョウ」と、地区の魅力を再確認することができました。野菜、花の売り上げは、金管バンドの活動資金としてご寄付いただきました。また、ホオズキを提供してもらい、休み時間には児童が集まってきてホオズキ遊びを地域住民の皆さんといっしょに楽しみました。

買い物の前後には授業を見てもらい、西内小の教育への理解を深めてもらう機会となりました。

9月10日 2日目 「わいわい会議」

「みんなで児童を育てよう 一家庭・学校・地域が連携してできること」をテーマに、上田市教育委員会：伴 美佐子さん、西内小地域コーディネーター：齋藤 繁子さん、西内小：渡辺元子校長によるパネルディスカッションを行いました。3名に加え、13名の地域住民の皆さんの参加があり、参加型の会議により討議をしました。

皆さんから他校の活動を紹介してもらい事例としながら、西内小でもこんなことが出来るのではないかと、また、こんなことが出来ている、さらに進めていきたいといった話がされました。学校と地域の連携について考える、今後の展望をもつ機会となりました。

9月11日 3日目 「北信地方の文化」

お菓子にはその地方独自の文化が反映されるといわれます。飯山、小布施の菓子店が販売をした「北信地方の文化」の催しは、北信地方の菓子文化に親しむ機会となりました。



地区内で交流を深めることは大切ですし、他地域の文化に親しみながら、改めて自分の地域の文化を見直し、その特性やよさを感じることもよい機会でしょう。訪れた菓子店主さんも、「すてきな造りの校舎ですね。明るい子どもさんたちですね。」との言葉を残し、ひともの・ことの交流ができました。

9月11日 4日目 「香港カフェ・ストレスマネジメント教室」

香港出身のALTと、香港文化、日本文化を話題に茶話会をもちました。言語は日本語、英語両方が飛び交っていました。お茶菓子もあり、



食べながら、飲みながらの国際交流となりました。終了後は、ALTの外国語活動の授業に参加いただいた皆さんもいました。

「ストレスマネジメント教室」では、臨床心理士で

県スクールカウンセラーの加藤梨沙さんにストレスを和らげるコツを教えてもらいました。シートに記入しながら、自己のストレス反応や思考のクセを振り返りながら、ストレス軽減の方法を考えていきました。話題は家庭や子育てのことにも及び、参加の皆さんが共感し合いながら話し合っているのが印象的でした。



9月12日 5日目 「祖父母参観・交流会・金管発表」

学校へ行こう週間最終日は、祖父母参観日でした。たくさんの祖父母、保護者の来校があり、学校が賑わいました。

祖父母参観の授業は、1・2年生は押し花を使った活動、3・4年生は段ボールを使った工作、5年生は俳句の発表、6年生はお茶請けづくりでした。



祖父母に活動の様子を見てもらったり、共に活動したりして、嬉しそうな児童の顔が見られました。

交流会では、それぞれの学年の計画で、手紙を書き合う、カルタや双六をする、お茶会を開くといった活動がなされました。どの教室にも和やかで、温かい雰囲気が生まれました。



金管発表では、熱心に耳を傾けていただく祖父母の姿に、一層熱を込めて演奏する金管バンド児童の姿がありました。最後の曲の演奏が終わっても拍手が鳴り止まず、アンコールの「聖者の行進」は一層盛り上がりました。地域で、手づくりで音楽を楽しむことができる西内小のよさが十分に



発揮されたステージでした。

授業への参加

期間中、来校者さんには授業の様子を見てもらったり、参加してもらったりしました。また、地域の歴史学習ということで、講話もいただきました。



学校に行こう週間期間中、学校は地域に開放され、開放的な雰囲気になり、児童の学びを中心に据えながら、教育、文化、自然を通して人が行き交い、つながり合うことができました。地域の文化、交流拠点としての学校の姿があったように感じます。学校へ行こう週間は、学校のめざすところを改めてとらえ直す機会となりました。

憩いタイム、憩いボランティアさん

学校へ行こう週間で充実した学校・地域連携の流れを、「憩いボランティア」につなきました。募集をしたところ、12名のご応募をいただきました。第



2、第4水曜日の休み時間、ボランティアさんにボランティアさんルームにいてもらい、いっしょに遊びたいとき、ちょっと疲れたとき、話したいとき、児童はボランティアさんルームを訪れています。ボランティアさんに児童と触れ合うこと、児童といっしょにいることを楽しんでもらえていれば幸いです。

地域をつなぐ 金管バンド復興応援コンサート

11月17日に本校金管バンドが復興応援コンサートを開催しました。学校体育館で手作りのコンサートです。台風19号の襲来により地域も大きな被害を受けました。復興作業に取り組む地域住民の皆さんを自分たちの音楽で励ましたい、勇気づけたいとの願いから開かれたコンサートでした。児童は当日までにコンサートの計画、チラシ作成、チラシ配り、会場準備など自分たちの力で準備を進めました。当日はおよそ150名の地域住民の皆さんの来場があり、金管バンドの音楽を楽しんでもらうことができました。コンサートでは児童から地区の消防団員に感謝状が贈られました。感謝状には消防団のおかげで地区から1人のけが人も出なかったと感謝の気持ちが記されていました。金管バンドはアンコール2曲を含め、全10曲を披露しました。地域住民の皆さんからは「金賞の拍手」として金管バンドに盛大な拍手が贈られました。地域のつながりをつくる、確かめられる温かなコンサートとなりました。



当日はおよそ150名の地域住民の皆さんの来場があり、金管バンドの音楽を楽しんでもらうことができました。コンサートでは児童から地区の消防団員に感謝状が贈られました。感謝状には消防団のおかげで地区から1人のけが人も出なかったと感謝の気持ちが記されていました。金管バンドはアンコール2曲を含め、全10曲を披露しました。地域住民の皆さんからは「金賞の拍手」として金管バンドに盛大な拍手が贈られました。地域のつながりをつくる、確かめられる温かなコンサートとなりました。

音楽でつながる 西内小音楽祭

お祭りのイメージとはどんなものでしょう。何人かの児童に聞いてみました。「たくさんの人が集まる」



「いろんな人が集まる」「みんなが笑顔」「にぎやか」「楽しい」そんな言葉が返ってきました。12月14日の西内小学校音楽祭は、多くの人が集い音楽を楽しむ音楽のお祭りとなりました。

児童は会場である体育館にいらした方々に自分たちの音楽学習の成果を聴いてもらおう、見てもらおうと演奏しました。金管バンドも、新曲に取り組み進化し

ようとする姿を見せました。来入児にも参加を促し、かわいいリズムの動きを見せてくれました。

本校の音楽祭で特徴的なのは、合同バンド、西内音楽クラブのステージです。合同バンドは金管バンドOB、OG参加のバンドで、今年度は中学3年生、高校3年生が多く集まり、金管バンドと合同で迫力のある演奏を披露してくれました。西内音楽クラブは保護者、地域住民の皆さん、職員を中心とした同好会のバンドです。こちらも児童に人気のある曲の演奏を聴かせてくれました。

体育館には、それぞれの演奏を楽しみに多くの保護者、地域住民の皆さんに集まっていただきました。西内小の子どもたちを中心に、音楽で多くの人が集いつながる音楽祭となりました。

まとめ

7月3日に中国重慶から小学生12名が来校し、本校6年生を中心に交流活動が行われました。その中で、互いの学校の児童数が話題となりました。本校は32名です。重慶の小学生の学校は、およそ2,000名ということでした。

昨今の日本においては、少子化が進み、小規模校の増加が見込まれています。同時に、質的にも個への対応、地域連携、異年齢集団による活動といった元来小規模校教育の取り組みの特徴は、教育界全体が新しい時代にめざす理念を多分に含んでおり、新しい時代に求められる課題からすると、先進的な内容ということができます。

学校では、小規模校だからこそできる教育というものがあるのではないかと考え、小規模であることの強みを活かした教育活動を追求しています。学校と地域の協働・連携はその一つです。今後さらに活動を発展・深化させていきたいと考えています。

異学年・異年齢集団、地域住民の皆さんとの活動によるコミュニケーション能力の育成

西内小学校では、縦割り班活動による遠足、西内の時間の活動を行っています。春の遠足では、異学年混合の縦割り班ごとに歩いたり、うどんを作ったりしました。西内の時間には、縦割り班ごとに遊びの計画を立てて楽しんでいます。異学年・異年齢集団による活動が日常的にあります。その流れで、休み時間なども

異学年・異年齢で混じって遊ぶ姿が見られます。運動会の全校表現、全校リレーなどでは、1～6年生で目標を共有して取り組み、表現・競技を創り上げました。

1・2年生、3・4年生は複式学級であり、5、6年生も合同授業を行っています。

異学年・異年齢集団による活動により、上級生は下級生を引っ張っていくリーダーシップを学ぶことができ、複式学級、合同授業では、上学年と下学年が入れ替わりながら上級生になっていきます。その間に中間リーダーとしての資質とフォロワー（リーダー補佐）としての資質の両方を経験するために、組織としての社会性、コミュニケーション能力を身につけていくことができるでしょう。

地域と学校をつなぐことで地域住民の皆さんと児童のコミュニケーションも生まれています。地域の人と名前呼び合う児童の姿があります。また地域住民の皆さんからは諸活動を児童と共にする中で、「子どもたちを自分の仲間とを感じるようになった」との言葉も聞かれます。校内の異年齢集団のかかわり、児童と地域住民の皆さんのつながりというようにさらにかかわり、つながりを広げ、深めていきたいです。

地域を活かした体験活動の充実

5月は全校で赤松植林体験活動を実施し、身近な森林に親しむことができました。6月には生活科・理科の活動として西内の特産であるリンドウの栽培見学、植え付けを体験することができました。西内の豊かな自然環境や自然環境を活かした産業に学ぶことができました。

来年度完全実施の新学習指導要領では、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として、「地域や社会における産業の役割を理解し地域創成等に生かす力」「自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力」が求められています。そういった意味において地域の産業や自然環境について学ぶ意義は大きいですし、体験的に学ぶことで、児童は五感を用い、学習対象への興味・関心を高められます。高められた興味・関心は、探究的な学習活動へとつながることが期待できます。今後も、意図的・計画的に地域を活かした学習活動を仕組み、児童の力をさらに伸ばしていきたいように取り組んでいきたいです。

学校・地域の連携による学校運営

学校支援ボランティアさんに大きな支援をもらいました。合同作業、プール清掃、土づくり等枚挙にいとまがありません。また、外国語活動では児童とともに学び、交流する機会をもっていただきました。カブトムシ、ヘビ、赤松、リンドウ、ブルーベリー、一本槍、館の殿様といった地域素材についての情報もふんだんにいただきました。

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」として、教育活動に地域の人的・物的な協力をいただいたり、社会教育との連携を図ったりしながら、学校教育を学校内に閉じずに、そのめざすところを社会と共有・連携しながら実現させることが求められています。そういった意味において、地域の学習を進めながら、地域住民の皆さんと学校教育目標「知恵とねばりと思いやり」、地域学習の充実、コミュニケーションの力の伸長等の願いを共有し取り組んでこられたことは有難いことと感じています。